

令和7年度 京都府立嵯峨野高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◇ 「和敬」・「自彊」・「飛翔」を教育の柱に据え、志を持って人生を主体的に生きる生徒を育て、世界のさまざまな分野でリーダーとして貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>◇ 「ほんまもん」の学びに出会い、一人一人が活躍できる学校を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの本質を知り幅広い教養を身につける授業を通して、未来へ続く学びの礎を築く。 ・フィールドワーク、実験、調査などを活用したラボ活動（スーパーサイエンスラボ、アカデミックラボ）を通して、課題設定・課題解決能力を育む。 ・海外連携校や留学生との国際交流を通して、多様な価値観に触れ、グローバルな視野と実践的英語力を育む。 ・生徒が中心となって取り組む学校行事、部活動を通して、豊かな人間性や協働性、リーダーシップを育む <p>◇ 嵯峨野GLIの実現を目指す。</p> <p>嵯峨野高校の教育を通して、志をもって主体的に社会とかかわり、将来、世界で活躍できるグローバル人材の育成を目指すという嵯峨野高校の教育理念。</p> <p>*嵯峨野GLI：嵯峨野グローバルリーダーシップイニシアティブの略</p>	<p>① スクールポリシーにもとづいて、日々の授業を中心に、本校の特色ある取組（SSH事業や探究活動、グローバル教育、探究成果発表会等）を分掌・教科間で連携して推進することができた。また、一人1台端末においては年度当初から運用できた。引き続き、教職員研修や各担当者会議等、授業研究をさらに充実させるとともに、「ほんまもん」の学びを実践していく。</p> <p>② 学習指導要領の進捗に伴い、観点別評価の定着は進んできているが、指導と評価の一体化を目指し、各教科においてさらに研究を進めていく必要がある。進路指導については各分掌・各教科が連携し丁寧に指導することができたが、生徒の進路目標が実現できるよう、新課程入試（共通テストや総合型選抜・学校推薦型選抜等）の動向や情報等を踏まえ本校の課題を分析し、今後も高い進路目標達成に向けた指導を教員間で共有するとともに粘り強く指導していく。</p> <p>③ あらゆる教育活動を通して、人権尊重の意識や身だしなみ、完全下校厳守等の規範意識向上に努めた。また、各委員会活動や学校行事、探究活動、部活動等において、生徒の主体性や適切な判断力・実践力の向上にも努めるとともに、生徒指導提要の趣旨に則り、校内におけるルールや規則の見直しについて生徒や保護者と積極的な意見交換をもとに改訂を進めた。今後、SNS等を含めた携帯電話に関するマナーについて啓発の継続の意識の向上を求めるとともに、生徒を一人ひとりと尊重し、責任ある行動を求める指導を行っていく。</p> <p>④ 個々の生徒の状況に応じて、関係機関や分掌と連携し教育支援を丁寧に行うことができた。委員会活動を通して環境美化意識の向上にも努めたが、ゴミの分別や節電意識の改善に課題がある。今後も、すべての生徒が自己肯定感をもち、心身両面において健やかに学校生活が送れるよう継続してサポートしていく必要がある。</p> <p>⑤ 学校説明会やブログ等を通して、本校のスクールポリシーや教育目標、教育内容の発信に努め、入学者選抜における生徒募集にもつながった。また、ラボ活動や部活動を通して地域とかかわることもできた。今後さらに本校の魅力を伝える場面を多岐にわたり設定できるように努めていく。</p> <p>⑥ 設備の老朽化について、適宜改修を行うことができた。また、LED化や人感センサー等設備改善を進め、節電にもつながった。今後も状況に応じて適切な対応をし、安心安全な学習環境の整備につなげていく必要がある。また、ICTを活用した業務改善（デジタル採点等）を進めていく。</p> <p>⑦ 教職員の働き方改革の一環として、今年度からの完全下校の一部見直しや業務の一部削減に着手した結果、時間外総勤務時間の削減において一定の成果が見られた。引き続き、教職員の意識改革や業務の見直しにも取り組み、働きがいを感じながらも心身共に健康に働ける環境作りに努めていく。</p>	<p>① 魅力ある学校作り 主体的に学び続ける生徒を育てるため、「ほんまもん」の学びを提供する。</p> <p>② 組織とその運営 分掌間の連携を密にして、全校体制で教育活動を推進するとともに、様々な視点からの危機管理意識を高め、安心安全な教育環境の構築に努める。</p> <p>③ 学習と進路指導 新学習指導要領に基づく教育を推進するとともに、あらゆる機会をとおして、自己の将来に対する明確なビジョンに基づいた高い進路目標の実現に努める生徒を育成する。</p> <p>④ 生徒指導と特別活動 人権尊重の意識や、挨拶・マナー等の規範意識を向上させるとともに、多様な価値観を受け入れ、自立した行動ができる生徒を育てる。また、特別活動をとおして、主体的・協働的に行動できる人材を育成し、対話を重視した活気ある生徒集団を育てる。</p> <p>⑤ 健康安全と環境美化 すべての生徒が心身両面において健やかな学校生活が送れるようにサポートする。また、環境美化意識を高め、学習環境の維持や校内美化に努める。</p> <p>⑥ メディアの活用 学校図書館の機能や役割を充実させ、生徒の読書活動や探究活動をさらに活発なもとのする。</p> <p>⑦ 家庭・地域社会との連携と広報活動 校種間連携や外部との連携を進めるとともに、学校の魅力を広く伝え、中学生や府民から期待され、選ばれる学校をめざす。</p>

学校経営計画 具体的方策について（最終評価）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
魅力ある学校づくり	主体的に学び続ける生徒を育てるため、「ほんまもん」の学びを提供する。	授業の質の向上に努め、学校全体で養う力「ACCEL [※] 」を意識した授業等を実践するとともに、将来にわたって主体的に学び続ける姿勢を涵養する。 ※「ACCEL」とは「Agency」、「Collaboration」、「Creativity」、「Expression」、「Logical thinking」の頭文字を表す。	B	年度当初の説明に加え、シラバスへの記載や教室掲示の工夫により、教員・生徒間で「ほんまもん」の学びの目指す方向性について共通認識が図れた。また、育みたい力を意識した公開授業も実施できた。ラボ活動における外部連携や研究手法が広がることともに、校外での発表に意欲的な生徒も増加した。また、アンケートの結果から主体的に学ぶ姿勢等の向上を実感する生徒が増加している。 一方、「ACCEL」を意識した教育活動をさらに充実させる。また、全学年に浸透するよう次年度も育成したい力と授業内容の連動を図る取り組みを継続する必要がある。	
		探究学習での学びの過程や成果を生徒が自分自身の言葉で語れるようポートフォリオを活用した指導を行う。	B	2年生全員がラボ活動でポートフォリオを作成する形が整った。さらにポートフォリオを生徒と教員の対話に生かす活用方法の研究を進め、効果や方針に関する教職員全体の理解を深める必要がある。	
		海外連携校・在京留学生などとの相互交流や国際交流の機会、海外研修の機会を充実させ、グローバル社会と主体的にかかわる人材育成に努める。	A	年間を通じて多様な国際交流や海外研修の機会を設定し、海外連携校・留学生との交流や新規校との交流も進めたことに加え、継続的な交流プログラムの実施を通して生徒の学びと国際理解がさらに深まった。	
		ICT活用事例について研修を継続し、1人1台端末のより効果的な活用法を研究・推進する。	A	生成AIに関する教員研修をガイドラインに基づいて実施し、校内の活用体制を整備した。定期的な研修により共通理解が進み、授業・行事でのICT活用も効果的に行われ、業務負担軽減にもつながっている。また、共通テスト・大学出願・模試申込などICTを用いた手続きにも適切に対応できた。ICTや生成AIの活用には適否の判断が必要であることから、今後もより効果的な活用方法の検討や研修内容の充実が必要である。	
組織とその運営	分掌間の連携を密にして、全校体制で教育活動を推進するとともに、様々な視点からの危機管理意識を高め、安心安全な学習環境の構築に努める。	各種行事や取組について、事前調整を丁寧に行う等、関係分掌間の連携を密にし、円滑な実施に努める。	A	各分掌が専門性を生かして連携し、各学年のガイダンスや各種行事運営などを円滑に進めることができた。特に、新入生対象のステップアッププログラムや各種ガイダンスにより生徒の高校生活を支援できた。	
		探究学習について、全教職員で取り組む体制を充実させ、教材や指導方法の共有化を進める。	A	教職員研修や担当者会議の実施、「ラボ活動ハンドブック」等の作成により、ラボ活動の進め方や探究の手法が共有できた。ロジカルサイエンスについても教材や年間指導案の共有化が進んだ。学会やコンテストの情報を積極的に提供したこともあり、挑戦する生徒が増加した。新しい教材開発やコンテスト参加の増加を踏まえ、効果的な指導体制や情報共有の仕組みを継続的に行っていく必要がある。	
		教職員一人一人が様々な危機への感度を高めることにより、危機発生時の未然防止に努め、危機対処方法への理解を深める。	B	AEDを追加設置し、講習会の実施によって教職員の安全・危機管理意識を向上させ、安全管理体制を強化できた。また、セキュリティ面でも継続的に注意喚起を行い、校内の安全確保に努めたが、危機管理や防災への意識はさらに高める必要がある。	
		委託業者による法定点検や校内自主点検を行い、学校施設・設備の安心安全の確保のため、校内体制を構築する。	B	技術職員や事務部による迅速な対応で施設の不具合に適切に対処するとともに、南棟フロア清掃など環境整備も進んだ。コミュニケーションアプリの活用で情報共有が円滑になり、早期対応につながっている。さらに、教職員が日常的に安全点検を意識する体制も整いつつある。一方、施設設備の老朽化が進んでおり、計画的な更新が今後の課題である。また、教職員一人ひとりが安全点検の視点をより強め、教育活動へ反映させていく必要がある。	
学習と進路指導	学習指導要領に基づく教育を推進するとともに、あらゆる機会をとおして、自己の将来に対する明確なビジョンに基づいた高い進路目標の実現に努める生徒を育成する。	学習指導要領における指導と評価や入試の状況を踏まえ、授業や評価の改善に向けた研修等の機会の充実を図る。	B	教職員研修を通して校内の情報共有が進み、外部研修の案内等によって入試に関する最新情報を得ることができた。今後も引き続き、教科主任会議などを活用して情報の共有を進めるとともに、「指導と評価の一体化」についても各教科で研鑽を深めていく。	
		進路ガイダンスや面談をはじめ、あらゆる機会を通して生徒一人一人が高い志をもつようにはたらきかけるとともに、その実現に向けて互いに高め合い、粘り強く努力できる集団となるようサポートする。	A	B	授業・補習・面談・ガイダンスなど、多様な場面で生徒への継続的な働きかけを行い、サマーセミナーや卒業生講話、進路ガイダンスを通して進路意識を高めることができた。学年回を中心として生徒の特性や希望に応じた個別指導を実施し、進路指導部と各教科の連携により、入試直前まで丁寧な支援体制を整えることができた。今後も、個々の生徒の進路希望に応じた丁寧な取組や面談を通して、生徒たちが最後まで高い志を保ち続けられるよう学校全体での支援体制を続けていく。
		探究学習の成果について教員間の共通理解を深め、その成果を活用した進路実現がさらに進むよう指導体制の構築を図る。	B	探究活動の成果を進路指導に生かすため、3年生向けに学校推薦型・総合型選抜の説明会を実施し、入試情報を効果的に提供できた。SSL [※] /AL [※] ポータルサイトの充実により情報共有が円滑になり、生徒の進路指導にも活用できた。より多くの教員が探究に関わる体制を工夫する必要がある。 （※SSLはスーパーサイエンスラボ、ALはアカデミックラボの略称）	
生徒指導と特別活動	人権尊重の意識や、挨拶・マナー等の規範意識を向上させるとともに、多様な価値観を尊重し、自立した行動ができる生徒を育てる。また、特別活動をおして、主体的・協働的に行動できる人材を育成し、対話を重視した活気ある生徒集団を育てる。	「人権三法」の確実な理解を土台に、基本的人権を尊重する心を育み、人権問題を直視し、解決に取り組む姿勢を育成する。また、多様性を尊重する意識と協調性のさらなる向上を目指し、系統的な人権学習を実施する。	B	人権教育推進会議と連携し人権学習を計画的に実施した。3年間を見通した内容により生徒の理解を深めるため、年間を通じた会議で学年部との連携を通して効果的な人権教育を行うことができた。引き続き、人権教育推進会議と学年部が連携し内容や指導方法の工夫に努める。	
		生徒との対話を重視しながら、規範意識の向上や基本的な生活習慣の確立に生徒が主体的に取り組む姿勢を育てる。	B	B	とこのは祭のルールづくり等を通して、生徒が主体的に身近な課題解決に取り組む機会をつくり、規範意識の向上につなげることができた。SNSやスマートフォンの使い方、交通安全等に関する規範意識やマナーについても、生徒の意識向上につながるよう継続した指導が必要である。
		学校行事、部活動、生徒会活動などのあらゆる教育活動をとおして、自己有用感、自他を尊重する態度をさらに向上させる。	A	生徒の主体的に新しい活動へ挑戦する意識がさらに高まり、部活動・学校行事・生徒会活動・ラボ活動での発表等への積極的な参加が見られた。部活動や学校行事において役割を果たす経験等を通して自主性・自己有用感・他者尊重の態度が育ち、生徒会の積極的な取組も学校全体の活性化に寄与した。	
		3年間を見通した主権者教育やデジタルシティズンシップ教育の充実を図る。	B	デジタルシティズンシップ教育を計画的に進め、生成AI活用のガイドラインを整備するとともにAI倫理学習の機会を提供した。また、模擬投票などを通して、生徒の政治・選挙への関心を高めることができた。生成AIの利用や原理に関する研修を通して、生徒・教員の理解を深めていく必要がある。	
健康安全と環境美化	すべての生徒が心身両面において健やかな学校生活を送れるようにサポートする。また、環境美化意識を高め、学習環境の維持や校内美化に努める。	配慮が必要な生徒の実態把握に努め、保護者や関係機関との連携を密にして、卒業後も見据えた丁寧な支援を行う。	A	担任・保護者・保健部・相談機関との連携を密にすることで、配慮が必要な生徒にも迅速かつ適切な対応が行えた。スクールカウンセラーの支援も活用し、大学受験等における配慮申請も含めて丁寧な支援を行った。引き続き、多様な生徒に対応するため、多くの教員が関わるよう一層の情報共有を進める。	
		教室の換気や手洗いの励行など、生徒の感染症予防対策への意識を持続させる。また、空気検査やCO ₂ モニターを活用し、学習環境を整える取組に努める。	B	B	保健美化委員会による空気検査を通して、換気など学習環境整備の重要性について意識を高めた。感染症予防については引き続き徹底した対策が必要なことから、普通教室に設置されているCO ₂ モニターの具体的な活用方法など検討を重ねていく。
		清掃活動や保健美化委員会の活動を通して校内美化に関する意識をより高め、学校全体で、節電、ゴミの分別と減量、美化意識の向上につながる取組を実施する。	B	保健美化委員会によるポスター掲示や清掃活動の体制づくりが効果を上げた。美化活動の定着をさらに進めるため、引き続き、生徒が主体的に美化活動へ参加できる機会を広げていく。	
学校図書館の活用	学校図書館の機能や役割をさらに充実させ、生徒の読書活動や探究活動をさらに活発なものとする。	各種広報や企画展示等を通して、図書館の積極的利用を勧め、生徒の自発的・主体的な読書習慣の形成に努める。	A	図書委員とともに「教員のおすすめ本紹介」など様々な企画を行い、図書館を利用するきっかけづくりをした。特別講義関連図書の即時展示など、生徒の知的好奇心を刺激する工夫を進め、図書館を魅力ある学びの場とした。各種広報や企画など積極的な活動が来館数や貸出の冊数に結びつくよう検討を進める。	
		図書館と各教科が連携して、図書資料等の整理・充実やICT機器の活用にも努め、探究活動の支援及び言語活動の充実を図る。	A	A	ロジカルサイエンス・スーパーサイエンスラボ I での図書活用を促すとともに、探究活動につながる関連図書の充実や授業・HR活動に応じた資料提供を進め、生徒・教員双方への支援ができた。多様化するニーズに対応するため、資料の継続的な更新や提供方法の工夫に努める。
		教職員の教科指導や研究活動に関し、資料・情報の収集に努め、図書の供用や情報提供等、教職員へのサポート機能の充実を図る。	A	授業や探究活動に必要な参考資料の提供に加え、小論文指導や入試対策資料も整備するなど、教職員のニーズに応じた資料の提供も進み、生徒・教員双方の学びを支えることができた。	
家庭連携・地域報社活動	校種間連携や外部との連携を進めるとともに、学校の魅力を広く伝え、中学生や府民から期待され、選ばれたい学校をめざす。	大学等の高等教育機関や企業、地域等に加え、卒業生との連携も推進し、「ほんまもん」の学びを提供する。	A	「嵯峨野高校サポートチーム」に登録した卒業生との連携が充実し、卒業生によるキャリア講話や探究活動指導等を通して、生徒の進路意識や探究活動の質が向上した。また、京都府立大学など外部との連携も広がっている。引き続き、講話や連携プログラムに参加できる機会を提供し、生徒のキャリアの形成や探究活動の質の向上を図っていく。	
		説明会やホームページ等を充実させ、全校体制による、より効果的に受け手に響く情報発信に努める。	A	A	SNSでの動画等投稿や学校説明会での卒業生による学校紹介などを通して、本校の魅力を効果的に伝える取り組みが進んだ。生徒の良さを生かした説明会運営やSNS更新により、中学生や保護者の関心も高まっている。今後も情報発信の質と頻度を安定させるとともに、より多様な層に届く効果的な発信方法を検討していく。
学校関係者評価委員会による評価				<ul style="list-style-type: none"> ・教員の熱心な指導のもと、生徒の主体性を重んじた教育が実践されているので、学校経営の評価についてもっと高く評価してよいと思われる。 ・校内での探究発表会等に保護者や卒業生を含め外部の参観ができています。 ・探究活動や海外交流も活発に行われているが、海外への研修旅行についても検討してほしい。 ・探究の成果が校外でも昨年よりも数多く発表されていることや卒業生によるキャリア講演等の活用が一層、充実していることは素晴らしい。 ・今まで大切にしてきたことを守りながら、時代に応じた教育が実践されている。今後、生成AIの活用については検討を進めてほしい。 	
次年度に向けた改善の方向性				<ul style="list-style-type: none"> ・スクールミッションとスクールポリシーに則った「ほんまもん」の学び及び「ACCEL」の実践を推進する。 ・SSH事業や探究活動、グローバル教育等、本校の特色ある取組をさらに充実させる。 ・人権尊重の意識、規範意識を向上させる教育、命を大切にすることを継続していく。 ・学校行事や部活動等を充実させ、主体性ある生徒の育成に努めるとともに、全ての生徒が心身両面において健やかな学校生活を送れるようサポートする。 ・観点別評価を適正に実施し「指導と評価の一体化」を目指した教育や生徒の希望進路を実現させるべく指導のあり方を検討し実践する。 ・学校説明会や嵯峨野ブログ等を通して本校の教育活動を積極的に発信する。 ・分掌間の連携を密に、全校体制で教育活動を推進する。 ・生成AIの研修など時代の変化に対応できるよう、教職員研修を充実させる。 ・安心安全な学習環境、校内美化の充実を図る。 	

評価基準 A 充分達成できている (目標以上の成果が得られた) B ほぼ達成できている (ほぼ目標とどりの成果が得られた) C 達成できているとはいえない (成果が不十分である) D ほとんど達成できていない (ほとんど成果がない)